

思いやりの心が 人を育てる



岡崎保護区保護司会 会長
小林 邦夫 氏

教育随想



平成20年6月1日

6月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

| | |
|-------------------------------|---|
| 教育随想 | ■ |
| 岡崎保護区保護司会会長 小林 邦夫氏 | |
| この人に関く | ■ |
| 石 職 人 | |
| 上野 梓氏 | |
| 羅 針 盤 | ■ |
| 河合中学校長 | |
| 菅原 秀美 | |
| ふれあい | ■ |
| 六名小 | |
| 本郷 一毅 | |
| 特 集 | ■ |
| 各校の特色ある学びの場 | |
| 平成20年度 岡崎市の教育予算 | ■ |
| お知らせ | ■ |
| フォト・ヒストリー | ■ |
| 地域と一体となって取り組んだ 花壇作り(昭和60年) | |
| この本を | ■ |

昭和五十六年に保護司を拝命して以来二十八年間、無報酬、使命感のみでよく続けて来られたと思います。

日本の刑事司法制度は国際的にも高く評価されていますが、その制度の入口は交番であり、出口は保護観察といわれています。私たちは出口をしっかり担当しています。

私自身としては、これまでに百名の対象者を担当し、六百名の新対象者と面接してきました。

その中から、人間はチャンスがあれば必ず更生することを目的の当たり前にしてきました。

裁判所において、名古屋保護観察所の保護観察官に代わって駐在保護司を担当して五年、六百名の新保護観察対象者と面接しました。保護観察の趣旨の説明と今後の生活指導を終えた後、帰宅する対象者一人一人



と握手し、励ましのことばをかけた。もう二度とここへ来てはいけませんよ」と諭します。どの少年も、どの人も納得して帰ります。

わずか一時間足らずのことですが、このことが再非行、再犯防止につながると思ひつつか裁判所から送り出して来ました。

長い保護司活動の中で、非行少年犯罪者を更正させるためには、やさしさと思いやりの心が重要だということを経験を通して痛感しています。

八月の北京五輪に際して聖火リレーが各国で行われていますが、チベットの独立問題が国際世論となって報道される中、チベット密教のダライ・ラマ十四世法王は、近著、「思いやり」の中で、「若い犯罪者に対しては、私たちが方からやさしさと思いやりを示し、面倒を見やる気持ちを失ってはなりません」と述べておられます。このお言葉は、私たち保護観察担当者的心そのものです。

(こばやし くにお)

ふるさとシリーズ
この人に聞く

志を高く

石職人

上野 梓氏

「高校二年の進路相談で『石職人になります』と言ったんです。家族にも話してなかったので、隣に座っていた母がびっくりしていましたね。」
笑顔で語る梓さんは、「おかざき匠の会」代表であり、石職人でもある上野房男さんの三人姉妹の末娘として生まれました。

「上二人が女だったので、両親ともに男の子を待望していたようです。だから、私も男になりたくて、小学生のときはスカートなんかはかかないで、男の子とばかり遊んでいま



した。石に興味はありませんでした。ただ、父のことが大好きでした。だれも跡を継がないと、父が頑張って築いてきたものが一代かぎりでは無駄になってしまおう。それなら、私がやろうと思ったんです。」

娘の思いを聞いた父は「やるなら、中途半端は許さないからな」と、許可してくれた。高校卒業後、本格的な修行が始まった。

「つらかったですね。筋肉痛と疲れで、仕事が終わると、指まで動かなくなることもありました。女のくせにと目で見られ、女っていうだけで相手にされないこともありました。」

そんな梓さんを支えたのは、石職人の魅力であった。

「石を削って何かを作ることが、すごく楽しかったですね。石に向かえば向かうほど、この仕事が好きになっていきました。」

ひたむきな努力が実り、平成十四

年の技能五輪全国大会石工の部では、銅メダルを受賞した。

苦勞を乗り越えて結果を出した梓さんは、見学に来る子供たちに「どんなつらいことの中にも、楽しさがある。楽しいことを見つければ、やり続けることができる。前向きに努力を重ねることが、プラスになるんだよ」と、必ず話すという。

「今、写真をもとにベットの想像を石で作る仕事をしています。お渡しすると、『死んだベットが戻ってきたようだ』と、涙を流して喜んでくれるお客さんもあります。自分の作品で、人の心を動かすことができます。それが、一番のやりがいですね。」

石職人になって七年目。「まだまだ修行中です」と話す梓さんの夢は、伝統的な灯笼を作ることだ。

「同じような大きさ、形の灯笼でも、よくできているものは、だれが見てもすばらしいと感じるんです。いつか、父のような作品を作りたいです。」

女性初の石職人として、道を拓いた上野さんは、「志を高く」を信条にさらに先に進んでいく。

氏名 うえの あずさ
生年月日 昭和五十六年十月七日
住所 岡崎市小島町新志一―一



情報活用能力の育成を

河合中学校長 菅原 秀美

自動同時通訳機は、携帯電話の大きさになろうとしている。無理であろうと言われた二足歩行ロボットは愛知万博で活躍した。携帯電話やパソコンで、WEB配信された教材を使って在宅で学習している子供も増えてきている。今までの学校放送では映像が見られなくなる可能性がある地上デジタル化は間近で、それに対応した機器が教室に入ってくる。これらは、日進月歩で進化しているICT(情報通信技術)に関する機器や技術のほんの一部である。これらの進化は、場合によっては今までの教育のあり方を変える可能性もある。ところで、教育界に吹き荒れている変動の嵐はいまだ収まらず、新しい指導要領が二年後にはスタートする。そのような変動の中にあっても、「情報活用・ICT活用能力の育成」は一貫して変わらない。各国の指導

命の大切さを 感じ取りながら

六名小学校 本郷 一毅

本校の五、六年生は例年運動会で、
沖繩の伝統芸能「エイサー」を、表
現運動として発表している。私は、
この運動会をきっかけにして、命の
大切さや自分の生き方を考える総合
的な単元を設定した。学校行事と結
びついたり、家族が参画する授業を
設定したりすることで、単元全体を
通して家族とのかかわりを大切にし
て取り組んでいった。

五年生の三学期に、沖繩県から転
入してきたA子。四月当初はまだ学
校や友達に慣れず、一人でいること
が多かった。日記に「学校に行きた
くない」と書いてきたこともあった。
A子には、以前に暮らしていた沖
繩のことを扱うことで、自信をつけ、
明るく前向きに活動できるようにな
ることを期待した。

道徳の時間に、「さとうきび畑」
の歌詞を資料にして、「家族参加型」
の授業を行った。家族の方数に子
供の輪の中に入ってもらい、短い発
言してもらった授業形態である。

この授業にA子の母親も参加し

た。授業参観などでは、母親はいつ
も妹の学級に長くいる。以前、「す
ぐに妹の学級に行ってしまうって、寂
しかった」と、つぶやいたこともあ
った。今回は、一緒に授業に参加し
てくれていることがうれしかったの
か、A子の表情は生き生きとしてい
た。

私は、主人公である「私」の、父
を失った悲しみだけでなく、戦争に



よって多くの悲しみが生まれること
に目を向けさせたかったので、「消
えない「この悲しみ」とはどんな悲
しみでしょう」と問いかけた。

この場面で、普段はあまり発言し
ないA子が手を挙げて、「お父さん
に会えない私の悲しみだと思いま
す」と発言した。これをきっかけに
して、子供たちからたくさん意見
が出された。

さらに、保護者の、「だんなさん
や子供を失ってしまった母の悲しみ

がある
と
思
い
ま
す」

とい
う
発
言
で、

母
親
の
立
場

とい
う
新

た
な
視
点

も
与
え
ら

れ
た。
子

供たちは、いろいろな立場の人の悲
しみに気づくことができた。

最後に、A子の母親に沖繩の人た
ちの戦争や家族に対する思いを話
してもらった場面を作った。

「沖繩では、みんな祖父を尊敬
していて、命のつながりをとても大
切にしています。」

母親の言葉に、A子は笑みを浮か
べたり、うなずいたりしながら聞い
ていた。

この授業をきっかけに、A子は授
業で積極的に発言できるようにな
り、クラスや学校のために仕事も進
んで引き受けるようになった。

そして、十月の学芸会。

「私は、こんなことをするために
生まれてきたんじゃないんですよ。」
わがクラスの劇「さとうきび畑の
唄」で主役を務めたA子の、自信に
あふれる声が体育館に響き渡った。



要領に当たるものを見ても、「情報活
用能力の育成」は重要視されており、
これは世界的な傾向でもある。

ICT活用の視点として、次の二
つがある。

①子供のICT活用能力を育てよう

欧米に多く、ノートや鉛筆とあま
り変わらない感覚でパソコンを使い、
普段の授業に気軽に取り入れている。

②ICTを利用して教育をしよう

日本や韓国、中国に多く、ICT
を教材と考える側面が強く、ICT
を利用して教育効果を高めようとし
ている。

もちろん、「ICTを利用して教育
効果を高めながら、子供のICT活
用能力を育てる」こともあり得る。

いずれにしろ、教師が、授業で使
わない限り、子供のICT活用能力
は高まらない。もっと気軽に使え
ばよい。

また、優秀な教材（コンテンツ）
が豊富に存在するようになってきた。
教師がICTを活用すれば、子供の
情報活用能力が高まることや経験の
浅い教師が、思いもよらないすばら
しい活用の仕方をすることも、昨年
の藤川小の実践で証明済みである。
ICT活用をどしどし進めて欲し
い。



▲昭和57年、開校7周年を記念して校内に設置された相撲場の土俵（竜美丘小）

市内の小中学校には、学区の自然や環境を生かしたり、その学校独自の施設を活用したりして、特色ある「学びの場」を創出している学校が数多くある。

学校や学区の自然や環境を生かした取組としては、代表的なものに「ピオトープ」がある。大門小では、「ピオ大門」と名づけ、矢作川の伏流水をポンプで汲み上げ、小川と池を作って豊かな自然を育てている。

自然を守る取組として、東海中では、学区の池に生息している絶滅危惧種であるカワバタモロコを守ろうと、飼育水槽を生徒たちの手で作製した。夏山小では、近くのマスの養殖場へ全校で出向き、マスの養殖を体験したり、実際に捕まえて調理したりして命の大切さを学んでいる。

学区の自然を効果的に生かした取組もある。恵田小では、学校に隣接する裏山の斜面を利用して、「落ち葉スキー場」を作り、冬場の体育の授業で大いに活用している。

また、学校独自の施設を活用し、学習や生活面で生かそうとしている学校も多くある。竜美丘小の「相撲場」や本宿小の「野外ステージ」では、子供たちが体を鍛えたり、学習を発表したりする場となっている。

甲山中では、「茶室道室（和室）」で「卒業記念茶会」を開き、日本の伝統的な礼法を体感させている。河合中では、「穴窯」を作り、焼き物ばかりではなく炭づくりにも活用している。額田中の敬信寮は、親元を離れて暮らしている子供たちの生活の母体となっている。

このように特色ある「学びの場」を提供することは、自然を守り大切に育つ子、いろいろなことに関心をもち、意欲的に学ぼうとする子、郷土を愛する子を育てる上で欠かせない。



▲裏山にある耐火レンガでできた炭焼き穴窯（河合中）



▲「ピオ大門」での調査活動（大門小）

自然を生かす



▲ カワバタモロコ保護池を清掃する生徒 (東海中)

▶ 落ち葉スキー場での滑降の様子 (恵田小)



三学期になって、「今度はどうまくすべることができかなあ」と思いながら、立ってすべってみると、初めて最初から最後まですべれました。二学期のときよりもスピードが出て、転びませんでした。と中で止まることもありませんでした。今では、何回も転ばないですべることがあります。バランスがうまくとれるように、手を前にのばしてすべることをつかめたからです。



▲ ニジマス養殖池とそこで捕まえた魚を調理する児童 (夏山小)

学習や生活で生かす



▲ 茶室での卒業記念茶会 (甲山中)

▶ 野外ステージで行われた新任式 (本宿小)

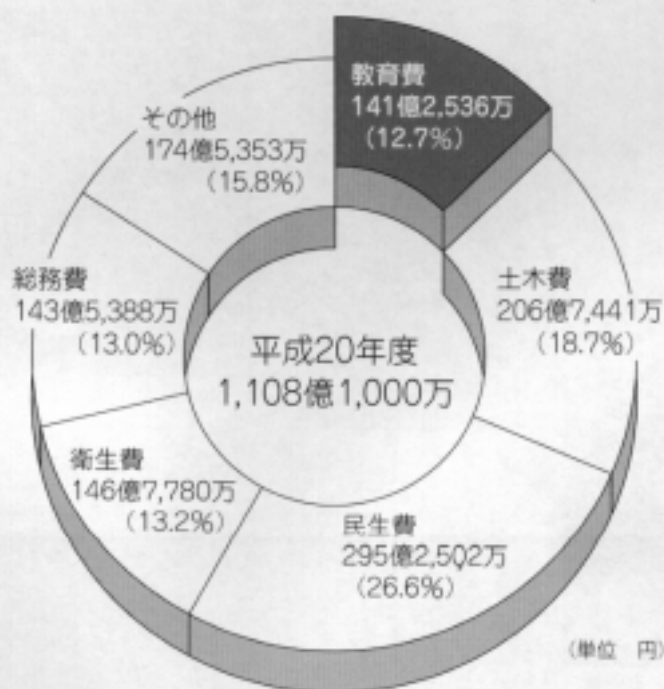


私たちの学校では、卒業の前に茶室(和室)で「卒業記念茶会」を開いています。茶室部員がたててくれたお茶はどれもおいしく、私の卒業の記念になりました。着物を着て、お茶をたててくれる姿は、普段の友達顔とは違い、とても輝いて見えました。茶室の床の間には「一期一会」という掛け軸がかけられています。同席をした茶室の先生が、その意味を教えてくださいましたが、私もその「一期一会」の精神を大切にしていきたいと強く感じました。



▲ 親元を離れて集団生活する敬信寮の生徒 (額田中)
◀ 定期テストに向けてラストスパートする寮生

〈一般会計予算〉



安全・安心で
活気に満ちたまちづくり

平成二十年度
岡崎市の教育予算



▲ 福岡小プール改装



▲ 竜美丘小校舎増築

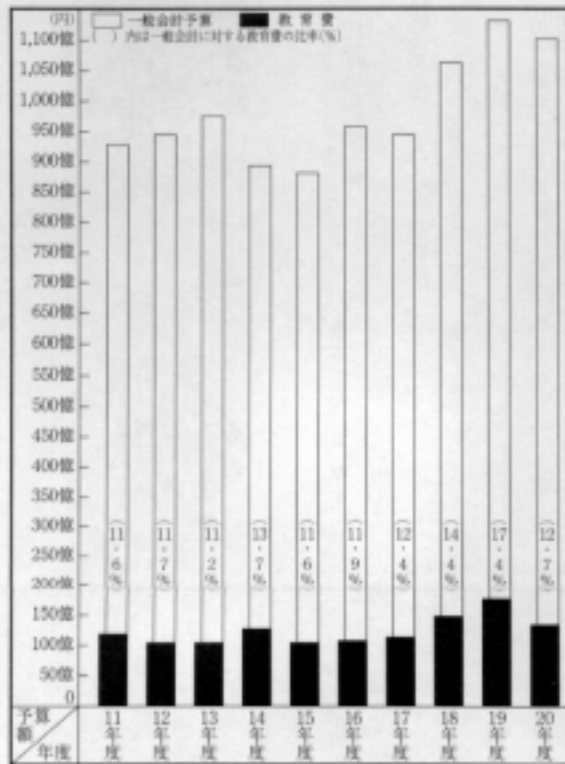


▲ 美川中屋内運動場改装

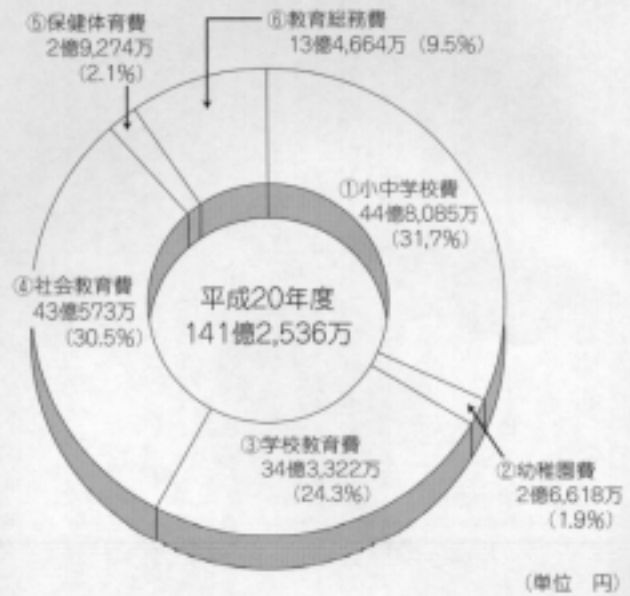


▲ 夏山小門扉整備

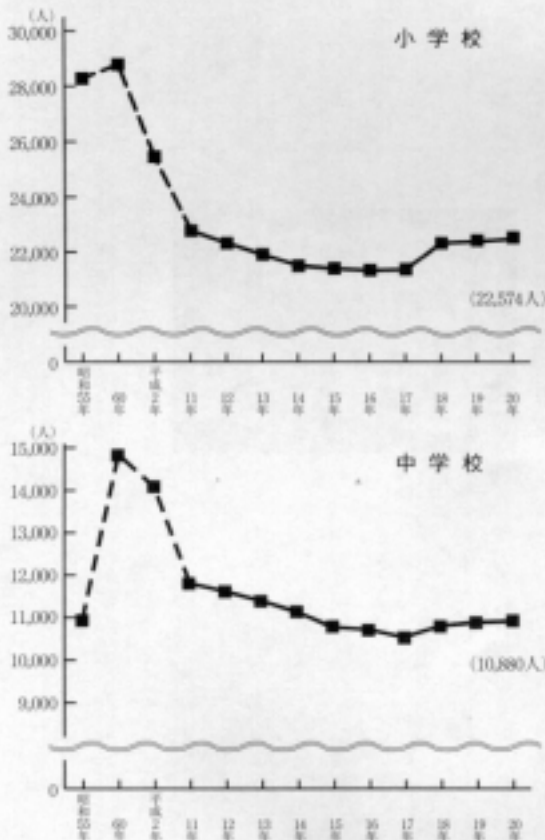
◆ 一般会計予算と教育費の推移



〈教育費の内訳〉



◆ 児童、生徒数の推移 (数字は毎年5月1日現在)



◆ 平成20年度のあらまし ◆

- ①小中学校費 校舎屋上防水改修 (根石小・東海中)
運動場整備 (福岡小・東海中)
下水処理切替 (北野小)
下水道移設整備 (矢作東小)
プール本体改修 (矢作西小)
プールサイド改修 (竜美丘小・岩津小)
便所改修 (大樹寺小・井田小・南中)
ドアホン整備 (小学校17校・中学校全校)
校内LAN整備 (本宿小・城南小)
校舎増築 (常磐小・矢作南小)
(プレハブを含む) (奥殿小)
校舎耐震補強、天井扇設置
(岡崎小・常磐小・美合小・緑丘小・美川中・岩津中)
屋内運動場天井改修 (小学校8校・中学校1校)
校地整備 (矢作東小)
旧屋内運動場解体・外溝整備 (美川中)
プール改築 (竜海中)
運動場暗渠排水設置 (岩津中)
- ②幼稚園費 園庭整備 (矢作幼)
- ③学校教育費 行事開催事業委託及び指導研修
教育の振興、研究助成
児童生徒の健康保持
小中学校各種スポーツ大会開催
教員補助者活用事業
外国語指導助手の増員
調理棟改修 (東部給食センター)
岡崎市民芸術文化行事開催事業
図書館情報システム保守委託
子ども読書推進計画策定
視聴覚ライブラリーの管理運営
生涯学習事業
市民センター管理運営及び施設改修
少年自然の家の管理運営 (施設整備工事)
図書館交流プラザの管理運営
康生地区拠点施設外溝工事
- ④社会教育費 体育振興事業
体育館施設整備事業
私立高校授業料補助金
私立幼稚園就園奨励費補助金
奨学資金支給、貸付事業

お知らせ

● 教育最新情報

◆ 特色ある学校づくり推進事業

各園・小中学校が創意工夫を生かした特色ある学校づくりに取り組むことにより、より地域に関わられた学校・信頼される学校づくりを進めることができる。こうした考えのもと、教育委員会は先進的な取組を積極的に支援している。今年度は、このための予算が大幅に増額され、一四四〇万円があてられた。

各学校から提出された計画書について、①継続性・発展性 ②創造性・斬新性 ③保護者・地域との連携の三つの観点から審査し、学校規模も考慮して、委託料が決定された。実施期間は、平成二十一年二月まで。委託料の有効活用が期待される。



◆ 英語教育の充実

平成二十三年度の小学校における英語活動導入に向けて、今年度から、市内全小学校において、英語のDVDの視聴が開始された。これは、六年間、視聴し続けられ、簡単な日常英会話ができることを目指している。

また、先進的に英語活動を実施するパイロット校として、次の八校が指定され、小学校の英語活動のあり方について、実践研究に取り組み始めた。

| 実施校・学年 | 実施校・学年 |
|------------|------------|
| 六名小学校 五・六年 | 竜美丘小学校 六年 |
| 竜美丘小学校 六年 | 広幡小学校 五・六年 |
| 本宿小学校 六年 | 常警東小学校 六年 |
| 大樹寺小学校 五年 | 矢作南小学校 五年 |
| 上地小学校 六年 | |

さらに、ネイティブスピーカーの発音を大切にしたい英語の授業（活動）を充実させるために、英語指導助手（ALT）を十名増員し、九名から十九名とした。

◆ 生徒指導相談員の派遣

昨年度立ち上がった「いのちの教育」アクションプラン推進事業の一環として、今年度から新たに生徒指導相談員を二名配置した。

学校の生徒指導体制のもと、非行や深夜徘徊、家出を繰り返す遊び・非行型の児童生徒や、精神的に不安定で学校生活に支障をきたしている児童生徒、また、その保護者に対する相談活動を行う。

一学期間は、南中、矢作北中を拠点校として、各小中学校からの要請に応じて、相談活動を行う。

（※要請がある場合は、学校指導課指導班・都筑まで）

◆ 小学校郷土読本の改訂

平成十八年一月一日の岡崎市と額田町との合併に伴い、小学校の郷土読本「おかささき」の改訂が行われ、この四月から市内小学校で使われている。

岡崎市の地図や図表などの資料を刷新するとともに、額田地区の事例を盛り込んだ内容は、地域学習を進める上で、重要な資料となっている。



◆ 六ツ美北中の研究発表

来る六月二十四日（火）に六ツ美北中学校の研究発表が行われる。研究主題は「共に学び合い、互いの成長を喜び合える生徒の育成」である。

生徒の人間力向上を目指し、平成十八年度より市の研究委嘱を受け、南山大学と連携しながら研究を進めてきた。自立力を育成するための生き方マップの制作、人間関係力を育成するためのグループワークトレーニング、そして、学習力を培うための協同学習の導入が、研究の特徴となっている。

● 芸術鑑賞会

感性を育む心の教育推進を目指して、本年度も芸術鑑賞会を開催する。

本年度は、劇団「かかし座」による名作ファミリーミュージカル「アラジンと魔法のランプ」を予定している。

ランプをこすると魔人が出てきて何でも願いをかなえてくれる。子供たちは、この魅力的な設定に夢中になり、想像力を駆り立てていくことだろう。影絵あり、音楽ありの迫力ある質沢な舞台は、子供たちの感性を豊かにしてくれるに違いない。

例年どおり、小学校全学年を対象に、親子での参加を募っていただくので、多くの子供が楽しめるよう、積極的な呼びかけを期待する。

- 日時 八月七日（木）
- ・午前の部 十時～十一時三十分
- ・午後の部 十四時～十五時三十分
- 場所 市民会館
- 演題 「アラジンと魔法のランプ」